

えむかえがわ  
江迎川水系河川整備計画

令和5年7月

長 崎 県



# 江迎川水系河川整備計画

## 目 次

1. 江迎川流域の概要	1
(1) 概要	1
(2) 自然条件及び社会条件	1
(3) 自然環境及び利用状況	1
(4) 関連計画	3
2. 江迎川の現状と課題	5
(1) 治水の現状と課題	5
(2) 利水の現状と課題	5
(3) 河川環境の現状と課題	5
3. 計画対象区間	6
4. 計画対象期間	6
5. 河川整備計画の目標に関する事項	6
(1) 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	6
(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	7
(3) 河川環境の創出と保全に関する事項	7
6. 河川整備計画の実施に関する事項	8
(1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される 河川管理施設の機能の概要	8
(2) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	10
(3) 流域での取り組みにおける連携や情報の共有化に関する事項	11

## 1. 江迎川流域の概要

### (1) 概要

江迎川は、長崎県佐世保市に位置し、その源を佐世保市吉井町の合戦原（標高 389m）に発し、南に流下した後流れを西に変え、松浦鉄道及び国道 204 号と並行しながら流下します。その後、山の田川と合流した北方向に流れを変え、蛇行しながら国道 204 号、松浦鉄道と数回交差し嘉例川と合流して、河口の江迎湾に注ぐ流域面積約 31.5km<sup>2</sup>、幹川流路延長約 9.7km の二級河川です。

図 1 - 1 に江迎川水系流域概要図を示します。

### (2) 自然条件及び社会条件

流域の気候は、西海型気候に分類され、対馬海流（暖流）の影響を受ける温暖な気候となっています。年平均気温は約 16℃、年平均降水量は約 2,000mm であり、梅雨や台風の影響を受けるため、6月から9月の降水量が多くなっています。

流域の地形は、シイ・カシ等の広葉樹林、スギ・ヒノキ等の針葉樹林を中心とした山地が大半を占めており、河川沿いは谷底平野となっています。江迎川中流左岸にはいわゆる北松型地すべりの鷲尾岳地すべりが位置しており、河口部の左岸側は干拓地となっています。

流域の地質は、佐世保層群に属する含炭新第三紀層が広く分布し、かつては佐世保炭田（北松炭田）の中心地域でもありました。これら第三紀層を被覆して厚い玄武岩が発達し、溶岩台地を形成しています。また江迎川中・下流部には、転石まじりの砂質粘土により埋積された沖積低地が発達しています。

流域が位置する江迎地区は古くから交通の要衝であり、江戸時代には平戸藩により江迎本陣（藩主が宿泊した宿舎）が置かれ、平戸街道の宿場町として栄えました。また、その後は明治以降の石炭産業で発展しましたが昭和 42 年には全て閉山し、現在は農業が中心です。流域の土地利用は、その多くが山地であり河川沿いの低平地で主に水田利用がなされています。宅地は、宿場町であった下流部や、炭鉱で栄えた上流部に分布し、流域内人口は約 4,550 人となっています。

### (3) 自然環境および利用状況

江迎川の源流から岩下橋（8 km 付近）に至る上流部は、河床勾配が急で山地溪流の様相を呈しており、岩下橋から 9 km 付近までは住宅地、これより上流はシイ・カシ萌芽林などの山林で占められています。河道内の水際や落差工上流の砂礫には、

ジュズダマ、アキカサスゲ等の<sup>たんししょうそうほんぐんらく</sup>単子葉草本群落が分布しており、キセキレイやセグロセキレイなど昆虫類を捕食する鳥類、河川周辺ではテンやタヌキなど哺乳類の生息が確認されています。また最上流域には「<sup>せんりゅうがたき</sup>潜竜ヶ滝公園」が整備され、清涼感のある観光地として人々に親しまれています。

<sup>みうら</sup>三浦ふれあい橋（2km付近）から岩下橋にかけての中流部は、川沿いに水田が多く広がるものの一部区間に住宅地がみられ、また山付き区間も長く、まとまった面積の河畔林が分布しています。農業用取水堰も多く、湛水部にはカモ類やサギ類、カイツブリのほかカワセミなども確認されています。河床の礫の隙間などには、ミナミテナガエビ、オナガサナエ（絶滅危惧ⅠB類 EN：長崎県レッドリスト（以下「長」という。））等のほか、ニホンウナギ（絶滅危惧ⅠB類 EN：環境省レッドリスト（以下「環」という。））、シマヨシノボリ、オオヨシノボリ（準絶滅危惧 NT：長）等が確認され、淵ではギンブナやカワムツが群れる様子がみられます。流れが緩やかな水際には、コシボソヤンマ（絶滅危惧Ⅱ類 VU：長）、オジロサナエ（絶滅危惧Ⅱ類 VU：長）、コヤマトンボ（準絶滅危惧 NT：長）等のヤゴをはじめ、コバントビケラ、モンキマメゲンゴロウ、ドンコ等が潜んでいます。また高岩橋上流には「平戸八景」に数えられる景勝地「<sup>たかいわ</sup>高巖」があり、松浦鉄道からも眺めることができます。

河口から三浦ふれあい橋までの下流部は、河床勾配が緩く感潮区間となっており、川幅も広くなります。河口部では、ミサゴ（準絶滅危惧 NT：環、準絶滅危惧 NT：長）や、カワウが生息し、江迎大橋周辺や嘉例川合流点付近ではアサクサノリ（絶滅危惧Ⅰ類 CR+EN：環、絶滅危惧ⅠB類 EN：長）が密生している箇所があります。干潮時に広く出現する礫干潟では、ウミニナ（準絶滅危惧 NT：環、準絶滅危惧 NT：長）などの貝類や、ハクセンシオマネキ（絶滅危惧Ⅱ類 VU：環）などの甲殻類が生息しています。嘉例川合流点上流にはウラギク（準絶滅危惧 NT：環、準絶滅危惧 NT：長）等の<sup>えんしやうしょくぶつ</sup>塩沼植物が生育するほか、カブトガニ（絶滅危惧Ⅰ類 CR+EN：環、絶滅危惧ⅠB類 EN：長）のつがいの生息も確認されています。1.5km 付近の蛇行部は、オシドリ（情報不足 DD：環、絶滅危惧Ⅱ類 VU：長）やマガモの集団越冬地として利用され、江迎橋周辺では、魚類ではトビハゼ（準絶滅危惧 NT：環、絶滅危惧ⅠB類 EN：長）、底生動物ではタケノコカワニナ（絶滅危惧Ⅱ類 VU：環、絶滅危惧ⅠA類 CR：長）などが確認されています。

水質に関しては、公共用水域のA類型（BOD 2mg/L 以下）に指定されています。環境基準地点である北平橋地点（河口から約 2.2 km）の近年 10 年

BOD75%値の平均値は 0.8mg/L であり、最高値でも 1.1mg/L (R2 年度) と基準値を満足し、良好な水質となっています。

※BOD：生物化学的酸素要求量

#### (4) 関連計画

長崎県では「災害に強く、命を守る強<sup>きょうじん</sup>靱な地域づくり」、「豊かできれいな海づくり、くらしやすい環境づくりの推進」、「人と自然が共生する持続可能な地域づくり」を政策に掲げ、安全で快適な生活環境づくりを目指しています。

江迎川の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会、経済の発展に係わる諸計画（佐世保市総合計画、佐世保市都市計画マスタープラン等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図っていきます。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川の整備・保全に係る取り組みの促進、河川の維持・活用に係る取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

この他、長崎県の都市計画区域マスタープランにおける江迎都市計画区域の都市づくりの基本理念としては、「水と緑に囲まれた自然環境と調和し、良好な住環境を創出する都市づくり」「西海国立公園などの自然や宿場町としての歴史を守り、活かす都市づくり」「周辺都市との多様な連携・交流を促進し、にぎわいと活力のある都市づくり」が挙げられています。その中で、江迎川は安全で快適な暮らしを支える重要な役割を果たす河川として位置づけられています。



図1-1 江迎川水系流域概要図

## 2. 江迎川の現状と課題

### (1) 治水の現状と課題

江迎川流域では、昭和42年の7月豪雨、昭和47年の断続した豪雨や台風など、集中豪雨や台風の大雨により家屋・農地の浸水被害が相次いで発生してきました。このため江迎川では、下流部の<sup>ふかえはし</sup>深江橋～嘉例川合流点において昭和63年に局部改良事業に着手し、河道の整備を行いました。

しかし、平成18年9月の豪雨及び台風13号、令和元年8月の大雨では、高岩橋で水位が氾濫危険水位を上回り、各地で床上浸水や冠水などの被害が発生しました。

江迎川では、これまでの治水対策により治水安全度の向上が図られたものの、洪水による被害を全川にわたり防止するまでには至っていないのが現状であり、更に治水安全度の向上を図る必要があります。

### (2) 利水の現状と課題

江迎川の河川水は、江迎町の上水道のほか、農業用水として9か所の堰により取水し利用されています。近年、これらの水利用に著しい影響を与えるような渇水被害は発生していません。

今後も地域住民や佐世保市など関連する他行政機関との緊密な連携のもと、合理的な利水の促進など適正な水利用に努めていく必要があります。

### (3) 河川環境の現状と課題

江迎川の上流部は、河床勾配が急で山地溪流の様相を呈しています。最上流域には「<sup>せんりゅうがたき</sup>潜竜ヶ滝公園」が整備され、清涼感のある観光地として人々に親しまれています。

中流部は、川沿いに水田が多く広がり、山付き区間には河畔林が分布しています。農業用取水堰も多く、湛水部にはカモ類やサギ類、水中ではギンブナやカワムツが群れる様子がみられます。河床の礫の隙間などでは、オナガサナエ、ニホンウナギ等が確認されています。また高岩橋上流には「平戸八景」に数えられる景勝地「<sup>たかいわ</sup>高巖」があり、松浦鉄道からも眺めることができます。

下流部は、河床勾配が緩く感潮区間となっており、川幅も広くなります。干潮時に広く出現する礫干潟では、ウミナナなどの貝類や、ハクセンシオマネキなどの甲殻類が生息しています。江迎大橋周辺や嘉例川合流点付近ではアサクサノリが密生



している箇所があります。支川嘉例川では例年8月に水掛け地蔵まつりが行われますが、江迎川本川では川へ降りる場所がなく、河川空間としての利用がしにくい現状となっています。

### 3. 計画対象区間

本計画の対象とする区間は、図6-3に示す江迎川の河口から二級河川上流端までの約9.7kmの区間、右支川<sup>かれいがわ</sup>嘉例川の約2.6kmの区間及び左支川<sup>やま たがわ</sup>山の田川の約3.1kmの区間とします。

### 4. 計画対象期間

本計画の対象とする期間は、概ね30年間とします。

なお、本計画は、現時点の流域の社会経済情勢・自然環境状況・河道状況等に基づき策定されたものであり、策定後のこれらの状況の変化や新たな知見・技術の進歩、災害等の変化により、必要に応じて適宜計画の見直しを行います。

### 5. 河川整備計画の目標に関する事項

#### (1) 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

江迎川においては、想定氾濫区域内の状況、長崎県の指標に基づいて、年超過確率1/50の規模の降雨により発生する流量を安全に流下させることのできる整備を目標とします。

また、今後、気候変動による外力増大が懸念されることも踏まえ、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、洪水による被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携して警戒避難及び情報連絡体制の整備、既存の洪水ハザードマップ等の見直しの作成支援等のソフト対策を総合的に実施します。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、集水域と氾濫域を含む流域全体で、あらゆる関係者が協働して行う総合的かつ多層的な治水対策を推進します。

(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川水の利用に関しては、地域住民や佐世保市等関連する他行政機関との綿密な連携のもとに、現在の河川環境に配慮しつつ、合理的な水利用の促進等、適正な水利用を図ることにより流水の正常な機能の維持及び河川環境の保持に努めます。

(3) 河川環境の創出と保全に関する事項

河川環境の創出と保全に関しては、非感潮域では、河畔林や水際植生、河床の礫などの保全、感潮域では、アサクサノリのほか、ウラギクなどの塩沼植物、カプトガニ、ハクセンシオマネキなどの甲殻類、タケノコカワニナなどの貝類をはじめとする多くの動植物の生息・生育・繁殖の場である干潟、汽水環境の保全に努めます。さらに、地域住民が水に親しめる場としての良好な河川空間創出を図ります。

## 6. 河川整備計画の実施に関する事項

### (1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

#### 1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所に関する事項

江迎川水系河川整備基本方針に位置付けられている河川の整備のうち、計画規模の降雨により発生する流量の安全な流下を図るため、河口から約3.4km地点までの河道整備を行います。その際、計画基準地点高岩橋での計画高水流量は、 $430\text{m}^3/\text{s}$  とします。

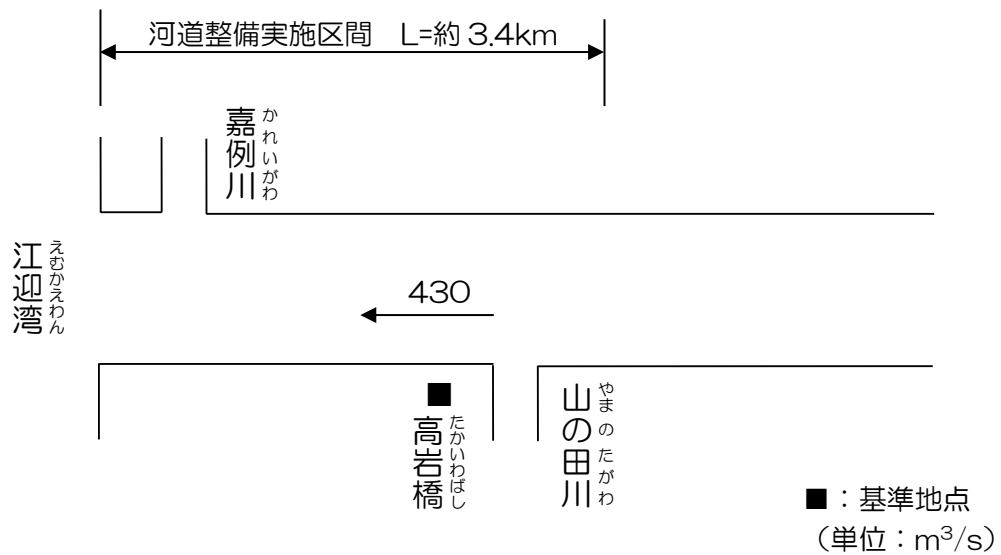


図6-1 江迎川計画高水流量配分図

## 2) 当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

計画高水流量に対する流下能力を確保するため、河口から約3.4km地点までの区間について、河道掘削、河道拡幅、特殊堤、護岸の根固め、橋梁架替えなどによる河道の整備を行います。その際、多様な動植物の生息・生育・繁殖の場である干潟の保全や、上下流及び水辺と陸地の生態系の連続性に配慮します。また、人が水辺に親しみやすいよう、親水性の向上や地域住民の憩いの場としての利用を考慮した良好な河川空間の形成に配慮した整備を行っていきます。

河川工事を行う際には、必要に応じて、砂の移動状況の確認や学識者等の意見を参考にしながら、多様な河川環境の保全に努めます。また、護岸整備を行う際には、景観や生態系に配慮した多孔質な護岸を積極的に使用します。

主要な地点における計画横断形状は、概ね下記のとおりとします。ただし、横断形状については、標準的なイメージを示したものであり、整備の実施においては現地状況等を調査し決定します。

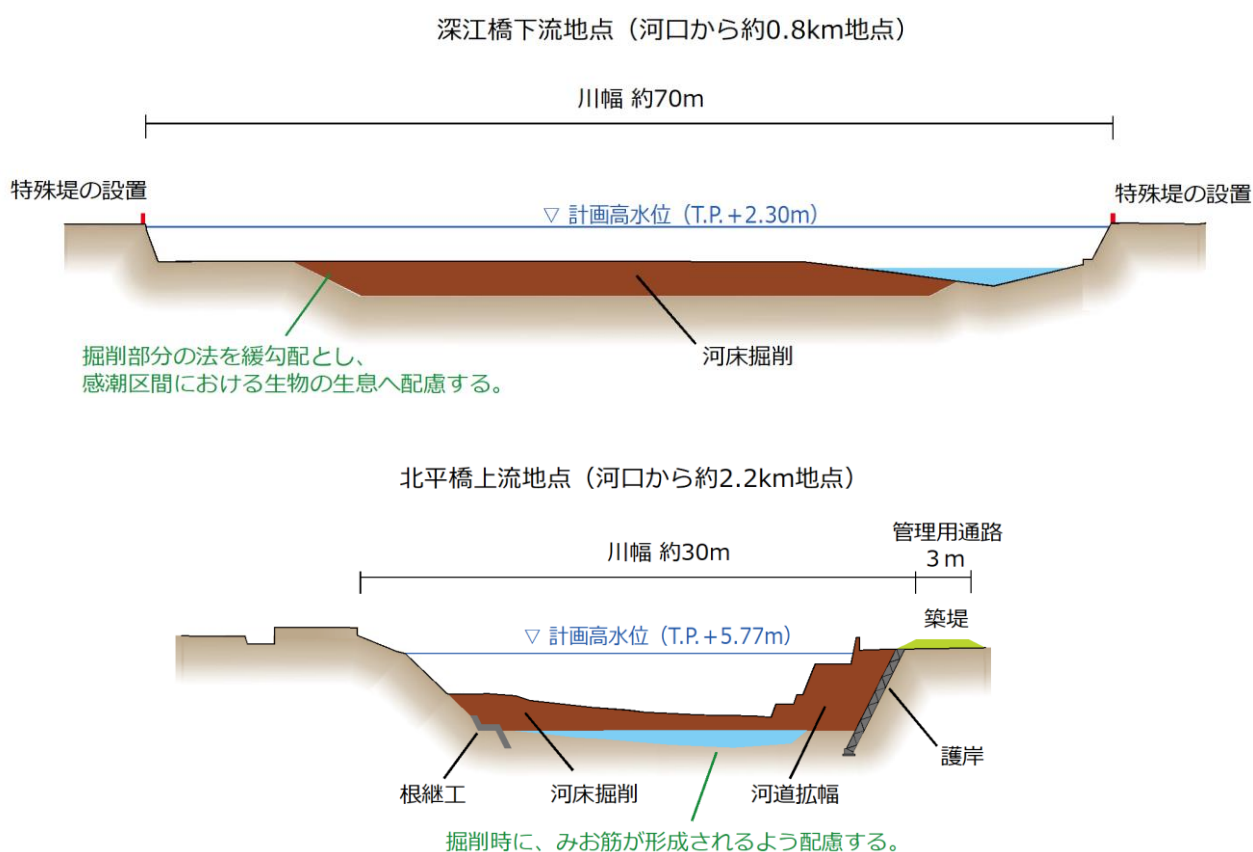


図6-2 主要地点標準横断面図

## (2) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

### 1) 河川の維持の目的

「災害の発生防止」、「河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持」及び「河川環境の整備と保全」の各観点から、河川の持つ各機能を十分に発揮させることを目的に河川の維持を行います。

### 2) 河川の維持の種類及び施行場所

#### ①堤防・護岸の維持・点検・補修

堤防・護岸については、亀裂・陥没等の異常がないかを確認し、異常が確認された場合には、必要に応じてその補修工事を実施します。なお、補修工事においては、河川環境へ極力配慮します。

#### ②河積の確保

河道内の土砂の堆積状況等を確認し、必要に応じて堆積土砂の除去を行います。また、流水の阻害となる河道内の植生については、適正な管理に努めます。

なお、土砂除去及び植生管理にあたっては、河川環境へ極力配慮します。

#### ③河川構造物の点検・維持

河川管理施設については、点検等を行うことにより、適正な維持管理に努めます。

#### ④水質の改善と美しい景観の確保

水質に係る地域の社会貢献活動等との連携や活動支援を図りながら、良好な水質の保持に努めます。なお、水質事故が発生した場合は、関係機関との連携により早期発見と適切な対応に努めます。

美しい景観の確保については、ごみ投棄防止の働きかけや河川清掃活動などを通じて、地域住民の水質や河川景観に対する意識の向上を図ります。

### (3) 流域での取り組みにおける連携や情報の共有化に関する事項

#### 1) 流域での取り組みにおける連携の強化

江迎川をよりよい川とするには、地域住民と河川管理者が「川は地域共有の公共財産である」との認識のもと、連携して川を守り育てていくことが重要です。そのためには、川の優れた価値を共有するための情報の発信や、河川清掃等の地域住民の自主的な活動に対する支援を行うなど、連携のための種々の方策を講じるよう努めます。また、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

#### 2) 河川情報の共有化の推進

計画規模を超過する洪水や整備途上における施設能力以上の洪水等に関しては、洪水による被害を最小限に抑えるよう、関係機関と連携し、これまでホームページで行ってきた洪水時の雨量や河川水位等の河川情報の高度化や、既存の洪水ハザードマップ等の見直しの作成支援、警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施します。

また、平常時においても、ホームページ等を通じて、江迎川洪水ハザードマップや河川に関する情報の発信及び共有化に努め、地域住民とのコミュニケーションの充実を図っていきます。

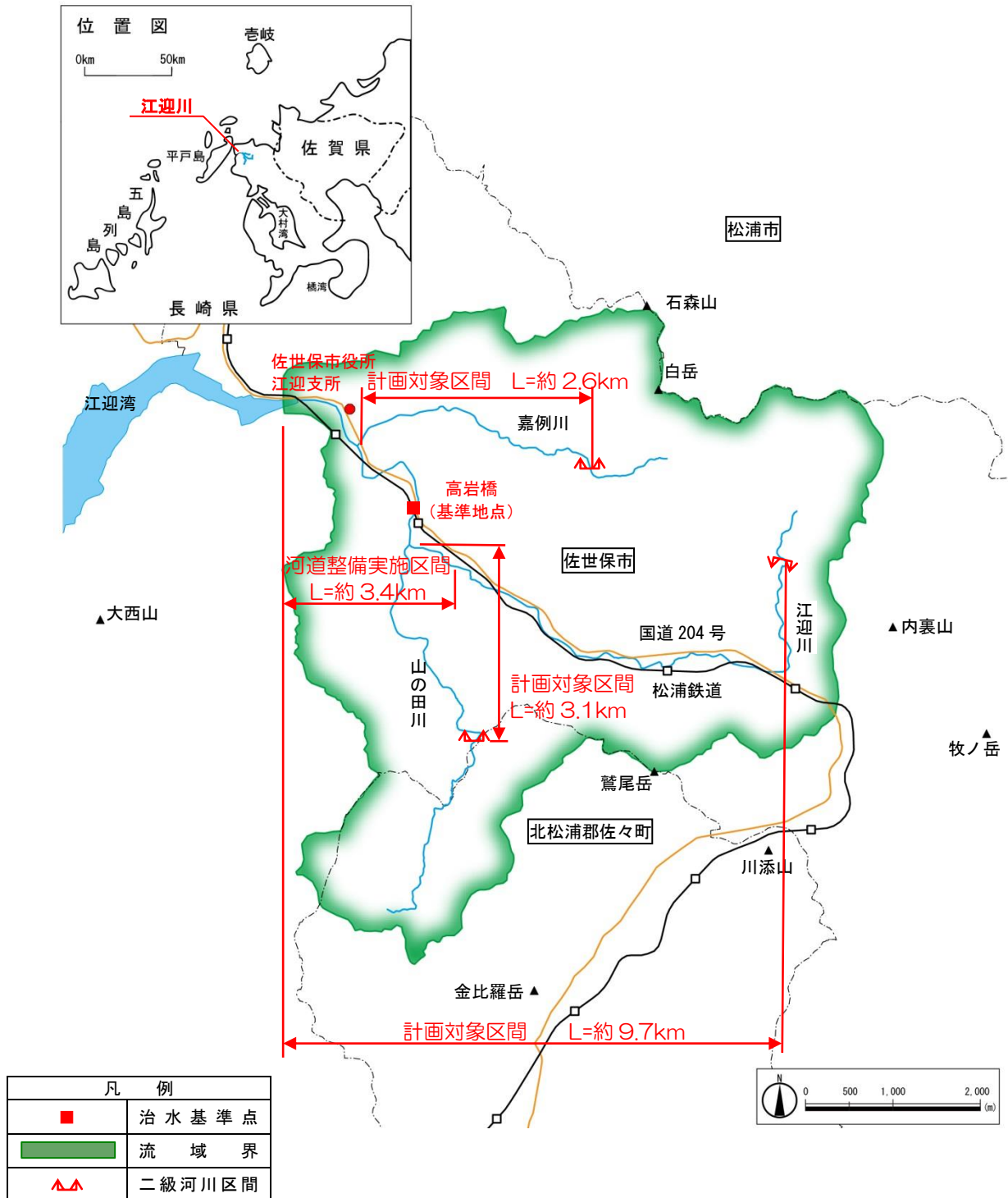


図6-3 江迎川水系整備計画平面図